

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	貴志（森本） 晶子
論文担当者	主 査 石原 正治
	副 査 新村 健
	副 査 八木 秀司
学位論文名	Subclinical decrease in cardiac autonomic and diastolic
	function in patients with metabolic disorders: HSCAA study
	(代謝異常患者における潜在性左室拡張能障害に自律神経機能
	低下が関与する—HSCAA 研究—)
論文審査の結果の要旨 左室収縮機能が保持された拡張性心不全(HFpEF)では、糖尿病や肥満等の代謝疾患と関連する自律神経機能障害が危険因子との報告がある。本研究では、代謝異常患者における自律神経機能と左室拡張機能の関連を検討した。 対象はHyogo Sleep Cardio-Autonomic Atherosclerosis (HSCAA) Studyに登録された 976 例のうち心不全、不整脈などの心疾患を除外した 605 例とし、75g糖負荷試験より正常耐糖能 (NGT) 136 名、耐糖能異常 (IGT) 154 名、糖尿病 (DM) 222 名、未分類 93 名に分類した。心臓超音波検査より左室拡張能の指標として拡張早期波 (E)、心房収縮期波 (A)、E/A比を測定、アクティブトレーサーより自律神経機能の指標として心拍変動係数 (SDNN、HF、LF、HF/LF) を算出した。腹部CTを施行しえた 404 例では内臓脂肪量を計測し 100cm²以上を内臓肥満とした。 NGT に比べ IGT・DM 患者では左室拡張機能の有意な低下を認めた。内臓肥満患者も、有意な左室拡張機能低下を認めた。一方、自律神経機能 (SDNN、HF) は左室拡張能指標 (E/A) と有意な正の相関関係を示し (SDNN: $r=0.306$, $p<0.01$; HF: $r=0.341$, $p<0.01$)、これらの相関は多変量解析でも有意であった。 以上より、代謝異常患者において自律神経機能の異常、特に副交感神経機能低下は他の因子とは独立して、心不全の発症前より左室拡張機能に影響する可能性が示唆された。本研究の成果は HFpEF と代謝異常との関連について重要な知見を与えるものと判断され、学位授与に値すると評価した。	